



# 平成24年度 果樹情報 第15号

(平成24年10月22日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (10月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が19.0℃で平年より1.2℃高く、2半旬が16.1℃で0.1℃低く、3半旬が15.1℃で平年より0.8℃低い状況でした。この期間の降水量は22mmで平年の35%でした。

## 2 土壌の水分状況 (10月15日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmで2.7と乾燥状態であり、40cmは2.2、深さ60cmは2.4とともに適湿状態にあります。

## 3 生育概況 (果樹研究所)

### (1) りんご

#### ア 果実肥大 (10月15日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「ふじ」は縦径83.2mmで平年比102%、横径が90.8mmで平年比103%と平年よりやや大きい状況です。

また、満開後日数による比較でも、平年よりやや大きい状況です。

#### イ 「ふじ」の裂果発生状況

10月12日現在の「ふじ」/マルバカイドウ (47年生) の内部裂果発生率は23% (昨年24%)、外部裂果発生率は8% (昨年10%) の状況でした。

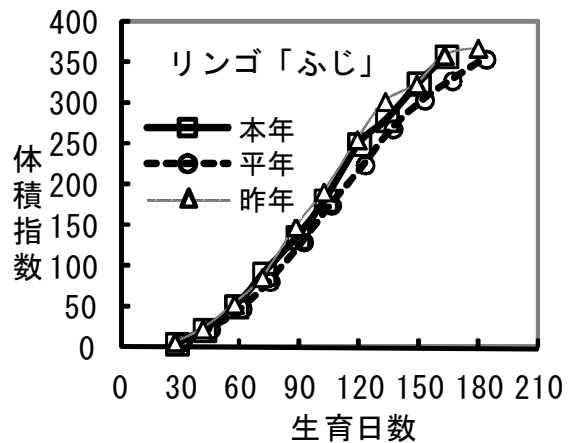


図1 りんごの果実肥大 (10月15日現在)

#### ウ 「ふじ」の果実成熟状況 (満開後159日)

10月10日現在の「ふじ」の成熟状況は、硬度は16.1ポンドで平年並み、デンプン指数は4.0で平年よりやや高い状況でした。また、糖度は13.8でやや高く、リンゴ酸は0.41%でほぼ平年並みの状況でした。果皮中のアントシアニン含量は平年並みで、クロロフィル含量は平年より多い状況でした。蜜入りは、入り始めの果実がわずかに確認されました。

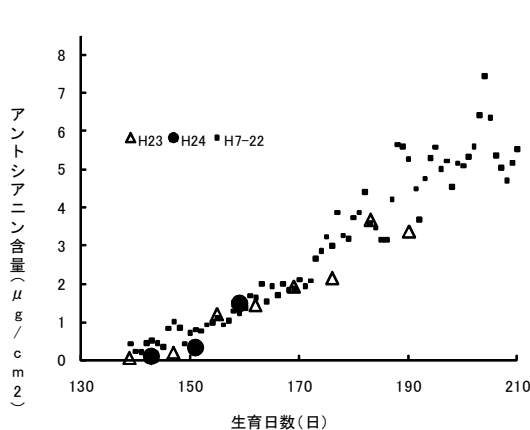


図2 「ふじ」のアントシアニン含量の推移

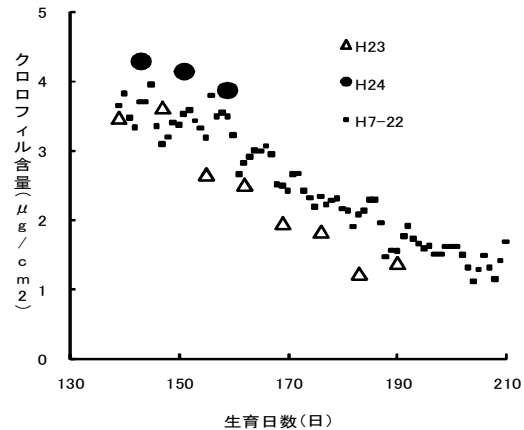


図3 「ふじ」のクロロフィル含量の推移

※りんごのデンプン指数：ヨードカリ液による染色が濃いほど未熟（指数1：100%染色、指数2：果芯部以外染色、指数3：果芯部の外側まで染色せずデンプンが消失しており果実切断面の50%以上が染色、指数4：果実切断面の20～50%が染色、指数5：染色部位はほぼ果皮直下に限られる）。

※ 果皮中のアントシアニン含量は数値が高いと着色が良く、クロロフィル含量は数値が高いと地色の緑色が濃い状態であることを示します。

#### 4 栽培管理上の留意点

##### (1) りんご

###### ア 「ふじ」の収穫前管理

摘葉、玉回しは遅れないように実施しましょう。

###### イ 「王林」の収穫

未熟果（緑色果）を収穫すると食味が劣るので、果面全体に果点が浮き上がってきた果実から2～3回に分けて収穫しましょう。

収穫適期は、果皮色が全体に黄色みを帯び、がくあ部付近にやや緑色が残っている状態です。果面から緑色が消えた黄色果は貯蔵性が低いので注意しましょう。

###### ウ 「ふじ」の収穫

着色や蜜入り状況とともに食味を確認し総合的に収穫適期を判断しましょう。蜜入り指数が2以上の完熟果実を収穫しましょう。

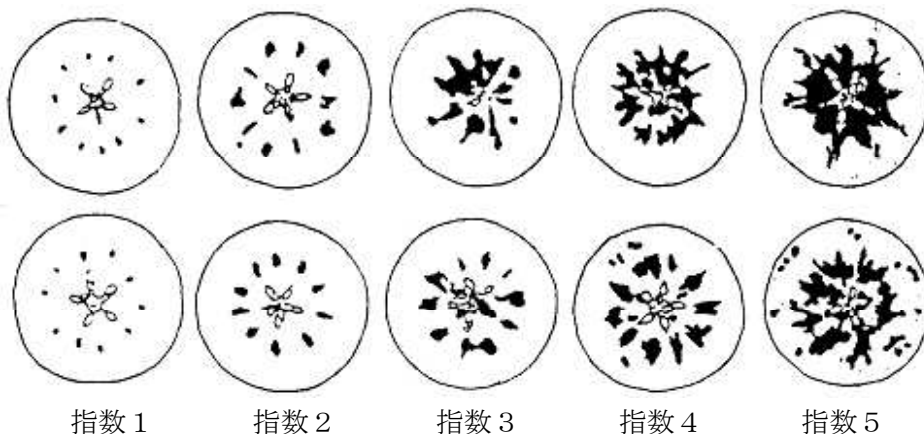


図4 りんごの蜜入り指数

#### 5 病虫害防除上の留意点

##### (1) 病 害

###### ア ももせん孔細菌病

2回目の秋季防除は、落葉前の10月中旬頃までに必ず実施しましょう。また、新梢葉や果実での発生が多かった園では、落葉前までにさらに1回秋季防除を追加し（計3回の秋季防除）、越冬菌密度の低下を図りましょう。

###### イ なし黒星病

2回目の秋季防除は、10月下旬までに必ず実施しましょう。また、本病の発生が多かった園で落葉が遅い場合には、追加で3回目の秋季防除を実施しましょう。

薬剤散布では、長果枝の先端まで薬液が十分量到達するように散布しましょう。

#### 病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。